

会員情報・交流誌

発行/宮城かんせんの会(みやぎ MKK)
E-Mail: miyagi-kansen@mbr.nifty.com
http://www10.plala.or.jp/MKK/

□本会では会員の皆様の協力を頂き、「会員アンケート調査」の配布・回収を完了致しました。

- ・今回の調査は、会員の皆様が東日本大震災後において、治療の面などで多くの苦労をされている事実を踏まえて、「震災後の患部変化や治療、通院等の状況」と「本会への活動期待」などについて伺い、『今後の本会の情報提供方法や活動のあり方に活かすこと』を目的に行ったものです。
- ・調査の回答は、対象者(患者会員全員:40名)の92.5%の皆様から頂きました。震災後のご苦労が絶えない中でのご回答に対し、心から感謝を申し上げます。
- ・この度、集計・分析を終え、皆様に調査結果を報告させて頂きます(結果概要は次頁以降に掲載)。

■乾癬協会国際連盟(IFPA)や全国各地の乾癬の会の皆様など多くの方々から、震災に関するお見舞いの言葉を頂きましたことに対し、厚く感謝を申し上げます。

**「会員アンケート調査」
結果がまとまる!**

— 震災後の治療・生活再建でのご苦労・
本会活動に新たな期待を持つ会員 —

会員皆様のご協力に感謝します

第3回役員会を開催

- ・平成23年度年次総会の議案書(案)を協議
- ・会員アンケート調査結果の概要(中間報告)を確認



第3回役員会:平成23年9月15日(江陽グランドホテル)
(左2人目/日本乾癬患者連合会・佐々木憲夫会長)

平成23年9月15日(木)に第3回役員会を開催しました。

役員会では、①「平成23年度年次総会」開催に関する議案の協議、②「アンケート調査」集計・結果(中間概要)の報告・確認を行いました。さらに、相談医・相場節也先生(東北大学大学院医学系研究科皮膚科学分野教授)からご提案がありました「温泉治療ツアー(「蔵王・四季亭」)を12月初旬に開催することを決定しました。

また、当日来仙されていた「日本乾癬患者連合会・佐々木憲夫会長」が役員会に参加されました。佐々木会長は「宮城の皆さんの明るく前向きに活動されていることに感謝と今後への期待」を語られました。

■「乾癬に関する重要な事実」IMPORTANT FACTS ABOUT PSORIASIS

乾癬協会国際連盟: The International Federation of Psoriasis Associations (IFPA)

- 乾癬は「免疫介在性疾患」です。
- 世界の乾癬患者数は「人口の約3%」(年齢、性別、人種、民族や性別に関わりません)。
- 乾癬は「伝染性はありません」(他人には感染しません)。
- 乾癬患者は「重症度が変化する症状の広い範囲」を示しています。
- 乾癬は「物理的に痛みを伴う」ことがあります。「炎症性病変」は開口割れ目と出血することや、「かゆみ」もあります。また、乾癬は全く痛みや衰弱が起きない場合もあります。
- 乾癬症状を改善するために「多様な治療法」がありますが、患者の多くは、各種の「治療法で生活の質が低下」することに直面しています。それは、非常に高価であることや重篤な副作用を引き起こすこともあります。
- 乾癬には「症状のサイクル」があります: 時として良くなること、悪くなることもあります。
- 乾癬患者は「恥ずかしさ、怒りや悲しみ」などの乾癬を持つことに対して非常に強い感情的な気持ちは持っています。
- 乾癬患者は「乾癬に対する嘲笑や他人からの回避」などを経験しています。「乾癬に関する教育を行う」ことは疾患の側面を管理することができます。
- 乾癬患者は、「自らが乾癬を抱えて生活に対処するための支援を必要」としています。
- 乾癬患者は、「皮膚疾患について可能な限り学び」、それが「医学的問題であることを理解」しておくことが重要です。
- 「一般の人々に、皮膚疾患についての事実を教育する」ことにより、乾癬に関する神話を取り除くことが求められます。



I. 調査の概要

□ 調査の目的

・平成23年3月11日の東日本大震災後に、会員の多くが十分な治療ができないなどの困難を抱えました。本会は「**震災後の状況と今後の活動期待を明らかにすること**」を目的にアンケート調査を実施しました。

<本会員アンケート調査結果報告は、以下の4項目です>

- ① 「会員状況」と「乾癬と治療の実態」
- ② 震災後の「治療状況」と「患部の変化」
- ③ 「入会理由」と「今後の活動期待」
- ④ 自由記入:「震災後から現在までの治療に困ったこと」、「震災の体験談」

□ 調査方法・結果概要

- 1) 調査期間:平成23年8月17日～8月31日(一部:9月7日)
- 2) 調査対象者と方法:全患者会員(40名:男性28名、女性12名)／悉皆調査
- 3) 配布・回収方法:配布郵送、回収郵送(FAX、メール可／一部は電話での聞き取り)
- 4) 回答者数:37名(男性26名、女性11名)
- 5) 回収率:92.5%(男性92.9%、女性91.7%)

1

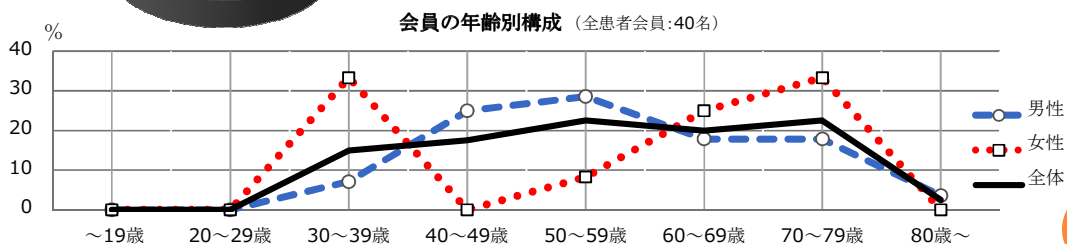
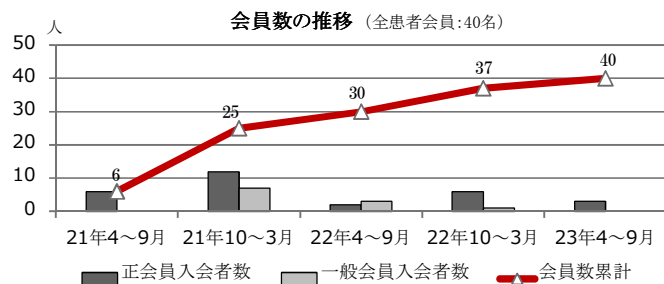
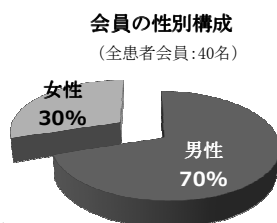
Miyagi Psoriasis Organization of Japan

II. 会員状況

(平成23年10月22日現在)

- 1) 会員数:43名(患者会員40名／正会員29名・一般会員11名、相談医3名)
- 2) 性別構成:男性70.0%(28名)、女性30.0%(12名)
- 3) 年齢構成:平均57.8歳(男性58.0歳、女性57.3歳)

- ・男性／50代、40代が多い
- ・女性／30代、70代が多い



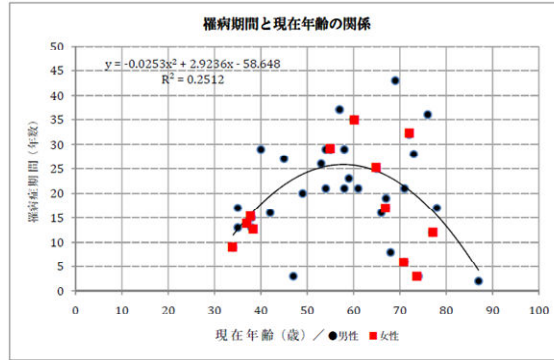
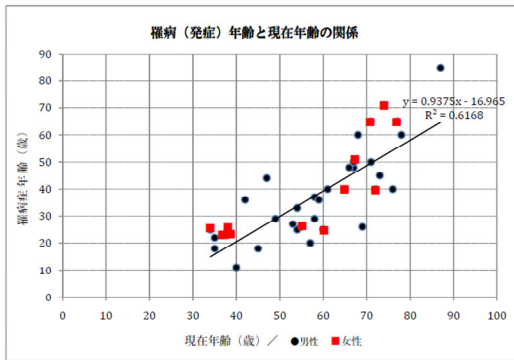
2

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

Ⅲ. 会員の「乾癬」と「治療」の実態

■乾癬罹病（発症）年齢と罹病期間

- 1) 乾癬発症年齢: **平均37.4歳** (男性36.3歳、女性39.8歳)
 - ・20代が最も多い(37.8%)、次いで40代(21.6%)
 - ・現在年齢との相関関係が認められる=高年齢に伴い、罹病年齢も上昇傾向
- 2) 乾癬罹病期間: **平均20.8年** (男性21.9年、女性18.2年)
 - ・現在年齢約58歳をピーク(約26年)とする二次曲線の関係



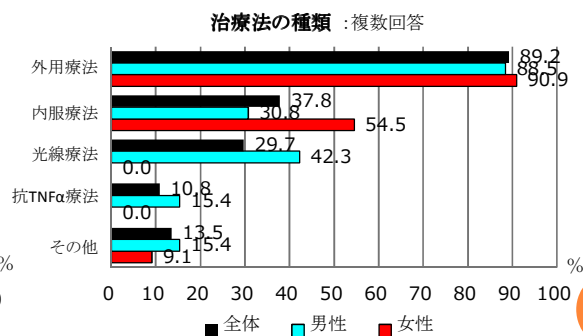
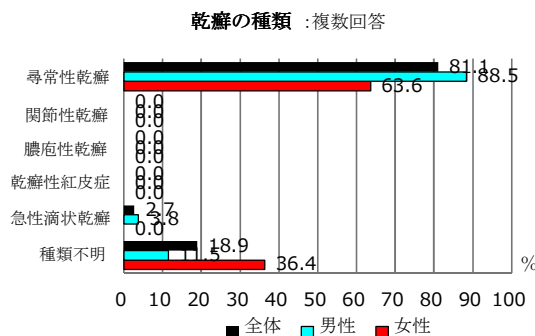
3

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

■乾癬の種類と治療方法

- 1) 種類(複数回答):
 - ・「**尋常性乾癬**」81.1% (男性88.4%、女性63.6%)が最も多い
 - ・女性で「種類不明」(36.4%)が多い
- 2) 治療方法(複数回答):
 - ・「**外用療法**」89.2% (男性88.5%、女性90.9%)が最も多い
 - ・「**光線療法**」と「**抗TNF α療法**」は、**男性のみ**

≪「併用療法利用」(89.2%) / 男性:「外用+光線」療法、女性:「外用+内服」療法≫



4

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

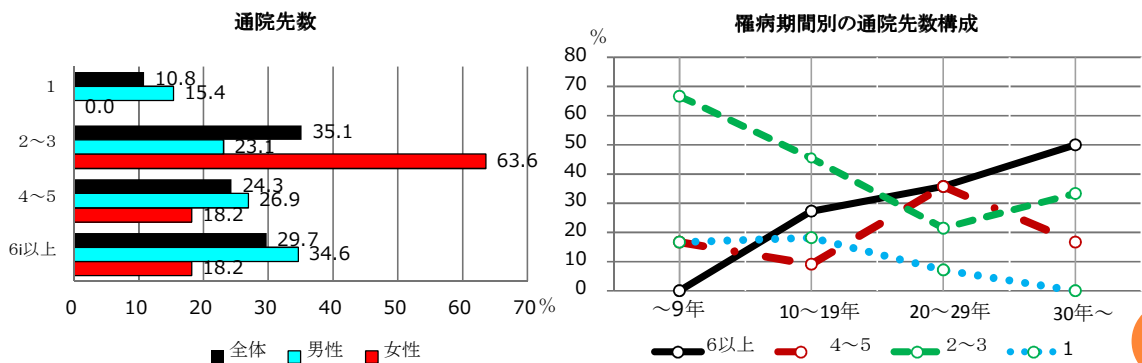
■ 乾癬罹病期間における通院先数

1) 通院先数:

- ・「2～3」(35.1%)、「6以上」(29.7%)、「3～4」(24.3%)、「1」(10.8%)
- ・男性は通院先数増加で構成比が高まる傾向

2) 罹病期間別の通院先数構成:

- ・罹病期間「9年以下」では通院先数が少ないほど高い
- ・罹病期間「20年以上」では「通院先数「6以上」が最も高い



5

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

■ 乾癬症状の改善実行策：複数回答

1) 全体:

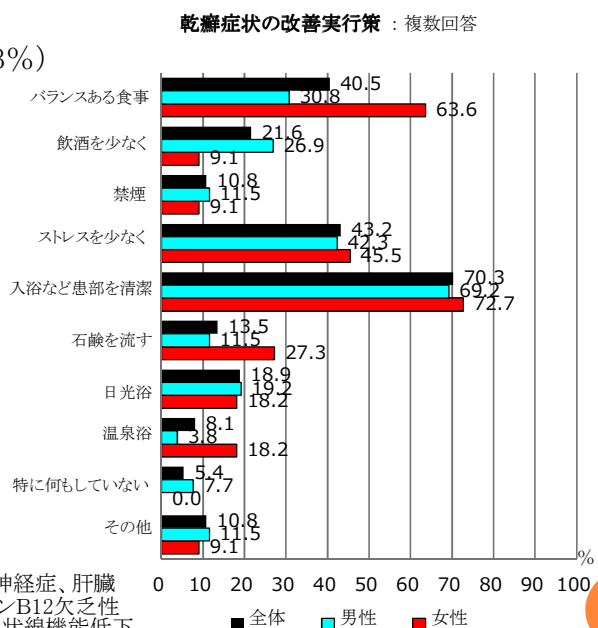
- ・「入浴など患部の清潔」(70.3%)
- ・「ストレスを少なく」(43.2%)
- ・「バランスある食事」(40.5%)

2) 性別の特徴：男女差比較

- ・女性／
 - ①「バランスある食事」
 - ②「石鹸を流す」
 - ③「温泉浴」
- ・男性／
 - ①「飲酒を少なく」

■ 乾癬以外の持病:

- ・全体の56.8% (以下に内容)
 - ① 高血圧(38.1%)
 - ② 糖尿病(28.6%)
 - ③ その他 (喘息、膝関節症、腰痛、末梢神経症、肝臓障害、天疱瘡、躁鬱病、脳梗塞、ビタミンB12欠乏性貧血、緑内障、歯周病、前立線ガン、甲状腺機能低下症など)



6

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

IV. 震災後の「治療状況」と「患部の変化」

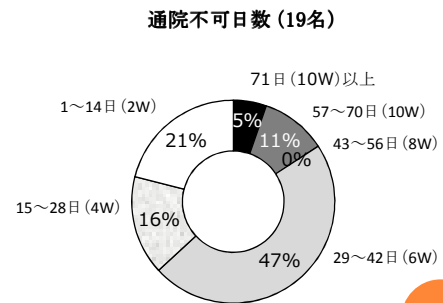
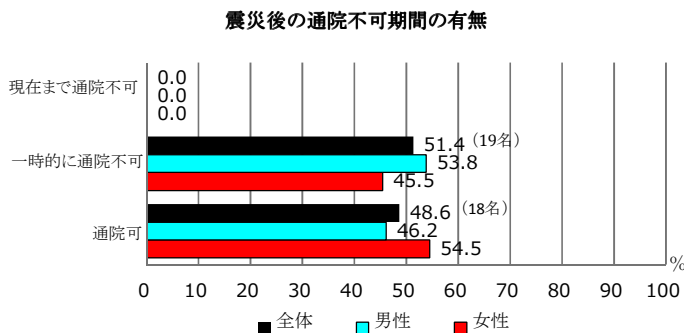
■通院状況

1) 通院不可の有無:

- ・「通院不可(者)」(51.4%)が過半を超える
: 男性(53.8%) > 女性(45.5%)、40代・50代で高い(各66.7%)

2) 通院不可期間(日数): 平均約29日

- ・「29～42日(6W)」(47.0%)が高く、「29日以上」の合計: 63.0%
- ・「100日以上」も存在



7

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

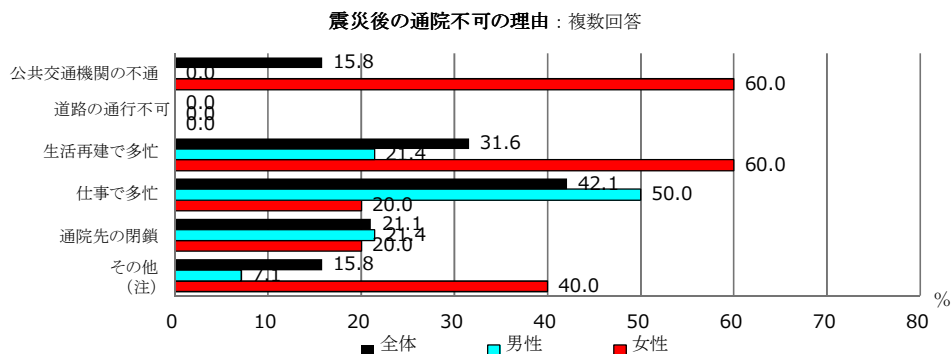
■通院不可理由: 複数回答

1) 全体:

- ・「仕事で多忙」(42.1%)、「生活再建で多忙」(31.6%)

2) 性別の特徴:

- ・男性/「仕事で多忙」(50.0%)
- ・女性/「生活再建で多忙」(60.0%)、「公共交通機関の不通」(60.0%)



- 注:その他
・電気の不通、ガソリンの不足、病院の重症・急患のみの受入れ。

8

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

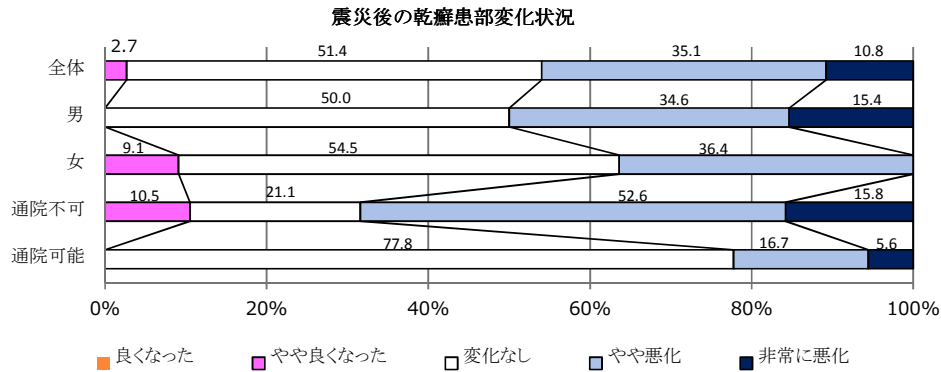
■乾癬患部の変化

1) 全体と性別:

- ・「変化なし」(51.4%)、「悪化」(45.9%)：<「やや悪化」35.1%、「非常に悪化」10.8%>
- ・「悪化」：男性(50.0%) / 「非常に悪化」は男性のみ > 女性 (36.4%)

2) 通院状況別の特徴:

- ・「悪化」：通院不可(者) (68.4%) > 通院可(者) (22.3%)



9

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

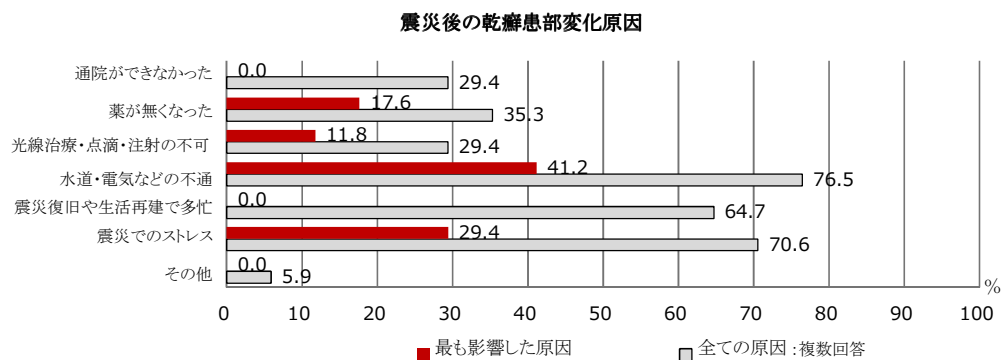
■乾癬患部の変化原因

1) 全ての原因(複数回答):

- ・「水道・電気等の不通」(76.5%)、「震災でのストレス」(70.6%)、「復旧や生活再建で多忙」(64.7%)

2) 最も影響した原因:

- ・「水道・電気等の不通」(41.2%)、「震災でのストレス」(29.4%)、「薬が無くなった」(17.6%)、「光線治療・点滴・注射の不可」(11.8%)



10

Miyagi Psoriasis Organization of Japan

V. 「入会理由」と「今後の活動期待」

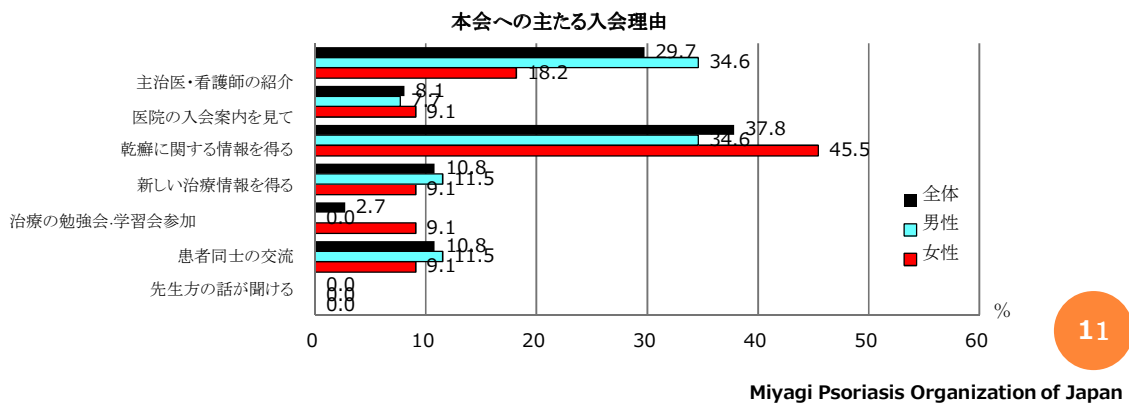
■主たる入会理由（動機）

1) 全体:

- ・「乾癬情報を得る」(37.8%)、「主治医・看護師の紹介」(29.7%)

2) 性別の特徴:

- ・女性／「乾癬情報を得る」(45.5%)
- ・男性／「主治医・看護師の紹介」(34.6%)
- ・男性／「乾癬情報を得る」(34.6%)



11

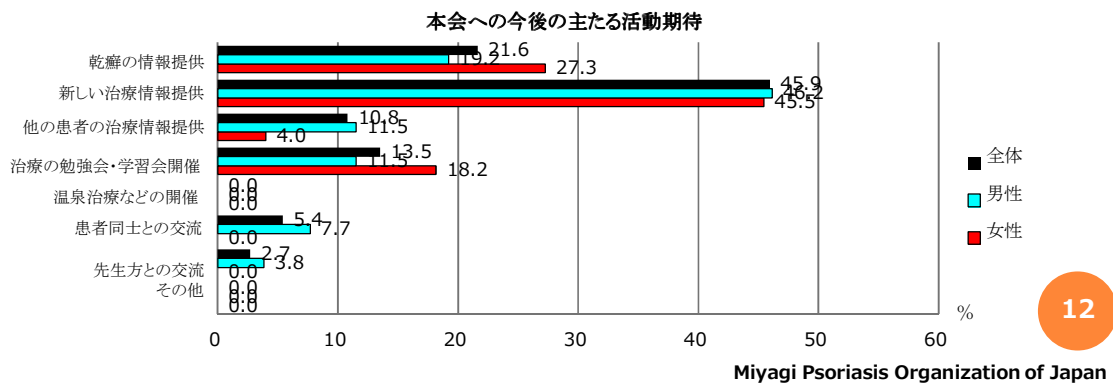
■今後の主たる活動期待

1) 全体:

- ・「新しい治療情報提供」(45.9%)、「乾癬の情報提供」(21.6%)、「勉強会・学習会」(13.5%)

2) 性別で高い項目 (男女の乖離差ポイントで比較):

- ・女性／「乾癬の情報提供」(8.1ポイント)、「勉強会・学習会」(6.7ポイント)
- ・男性／「患者同士との交流」(7.7ポイント)、「他の患者治療情報提供」(7.5ポイント)、「先生方との交流」(3.8ポイント)



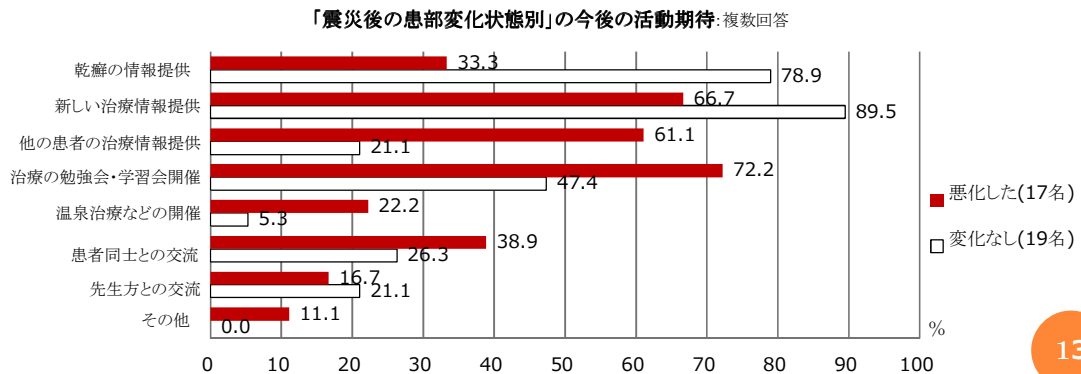
12

3) 震災後患部変化状態別で高い項目(乖離差ポイント):

- ・悪化した会員:
「他の患者治療情報提供」(40.0ポイント)、「勉強会・学習会開催」(24.8ポイント)、「温泉治療など開催」(16.9ポイント)、「患者同士の交流」(12.6ポイント)

《 体験型治療情報を求める傾向 》

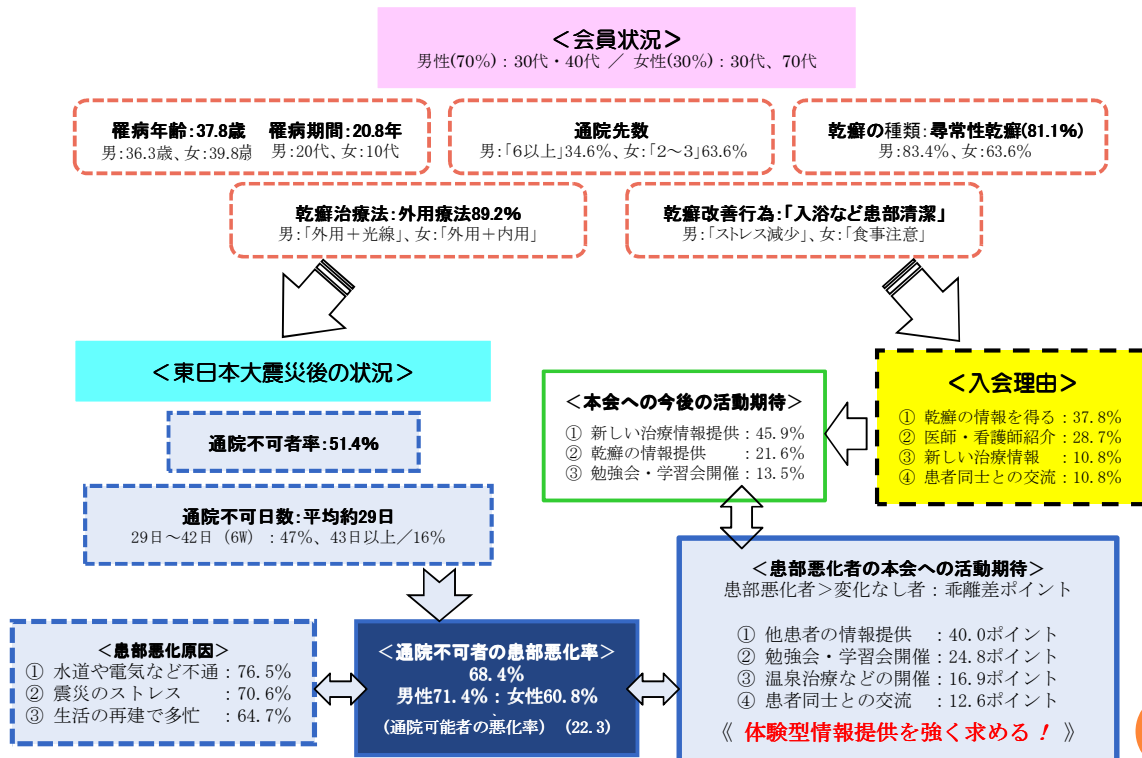
- ・変化なし会員:
「乾癬の情報提供」(46.5ポイント)、「新しい治療情報提供」(22.8ポイント)



Miyagi Psoriasis Organization of Japan

13

「まとめ」



Miyagi Psoriasis Organization of Japan

14

＜体を清潔に保つ水道の不通(水不足)、入浴不可など＞

□温水器が倒壊して、シャワーが浴びれず、患部を清潔にすることに苦勞しました。毎日、わずかな水で体を拭いていました。これは、体験しないとわからないことですね。(S.Nさん)

□震災後、風呂に入れずに体のあちらこちらの皮膚にびらんが出来てしまいました。(K.Kさん)

□水道が止まったために、入浴(お湯に浸かること)が出来なかったことです。(K.Yさん)

□入浴が出来ずに、タオルで体を拭く程度でした。(M.Hさん)

□入浴ができず、塗り薬を塗っていましたが、患部の悪化は目に見えて増して不安になりました。今は5カ月が過ぎてそれなりに治まっています。(T.Mさん)

□水道、ガスが不通になり入浴が出来なかったことに困りました。そのこともあり、ストレスが高まり患部が酷くなっています。(T.Kさん)

□水道が通らず、患部の悪化には残り少ない塗り薬で対応しました。とくに、顔と肩甲骨周辺が広範囲に酷く一酷くなっています。(H.Tさん)

＜交通機関の不通、ガソリン不足＞

□交通機関が停止していたり、運行が開始されても通常運行でないために通院に時間が掛かりました。

自家用車で通院しようとしても、ガソリン不足で給油が出来ませんでした(GSがいつ開店するのか分からず、開業している店舗があっても長蛇の列でした)。(K.Yさん)

＜薬不足＞

□薬が無くなったことで、患部の悪化が心配でした。(S.Nさん)

□薬(塗り薬)の使用量を少なくしています。それは、病院では薬不足などであり、自分よりも他の患者さんのためにも思い通院を控えていましたので、患部が悪化していったことです。(H.Sさん)

＜医院の閉鎖、医師の不在など＞

□病院が開いていなく困りました。やはり、乾癬の完治は難しいのでは?と思っています。(K.Kさん)

□震災前に通っていた病院の担当医師が止めてしまいましたので、別の医療機関を探しています。どなたか良い医院(医師が親身になってくれる・丁寧に説明してくれる・良く話を聞いてくれる)がありましたら、是非教えて頂きたいと思います。会員相互によるそのような情報が欲

しいです。(E.Sさん)

＜仕事の多忙など＞

□震災後に被災地の仕事が増え、その対応のために通院の時間が無くなっています。(H.Kさん)

□仕事が非常に忙しくなり、色々な仕事上のストレス(手配、準備、資金繰りなど)を受け患部が悪化しました。そして、通院も出来ませんでした。(H.Kさん)

□震災後に被災地への転勤となりましたが、通院可能な医院が一カ所しかなくいつも患者で混雑しています。定期的に従来の仙台に通院しています。

また、食生活が不規則になりがちで、症状の進行に悪い影響を与えるのではないかと危惧しています。(Y.Sさん)

＜新たなストレスの発生＞

□乾癬には、ストレスとメタボリックシンドロームが良くないと思い、震災前は定期的な運動を心掛けていました。

しかし、震災後は「急性ストレス障害」と思われる症状が出て、運動する気が起きず、治療の効果が上がらないことです。(A.Kさん)

＜患部への新たな対処方法の試み＞

□震災後に「宮城かんせんの会」の皆さんとの情報交換で、入浴後の保湿ローションが良いと言われて今、実行しています。

そんなに高価な保湿剤は使っていませんが、何か効果が上がっているような感じがします。十分な水を使えない中での保湿剤には感謝でした。(T.Wさん)

＜今後の治療への不安＞

□特別に困ってはいないのですが、悩んでいることは、やはり「乾癬症は治療不能な病気なのではないか?」と、震災後に強く思うようになりました。(S.Oさん)

□震災直前に他の病気で入院し、退院したばかりだったことや仕事のこともあり、とにかく悪化しています。原因が全く分からず、治療効果も出ていません。(H.Iさん)

□震災後は、色々なことが頭をよぎりました。乾癬には負けてはいられないと思いつつも、これまでのような治療が十分できなくなり不安です。何か良い治療法が無いものでしょうか。(K.Hさん)



気仙沼市中心商店街地区



塩竈市観光棧橋付近 (国道 45 号)



仙台市・仙台港地区



仙台駅 3 階・新幹線ホーム

□当日は、仙台駅前ビル 2 階の喫茶店に居ました。ビル内は大きな揺れではなく、食器や棚に異常はありませんでした。しかし、店長は大地震発生であることを知り、料金を取らずに店外への非難を告げました。外では通行人が歩道に伏せ、多くは中央分離帯に避難していました。仙台駅舎は出入口がすぐ閉鎖され、利用者は駅前駐車場・広場に集合していました。

自宅 (マンション 13 階) に戻ると EV は停止、階段を上がり、室内に入ると玄間の靴棚から全ての靴が投げ出され、台所では全ての食器が壊れて散乱、温水器は倒壊して水浸で、12 階の方が水漏れが酷いと伝えに来ました。この結果、4 カ月間風呂に入れず、皮膚を清潔に保つことができずに患部は悪化しました。また、書斎は全ての書籍が床に落ちて足の踏み場もない状態になり、さらに、4 月 7 日夜の大余震で、巾 4 m の書棚は机に座っていた私の後ろから全て倒れ、間一髪で机の下に身を隠したお陰で命拾いをしました。

ところで、国内はもちろん、アメリカ、ドイツ、イギリスなどの友人からも即座に安否のメールや見舞金の送付を頂きました。多くの方々に支えられました。(S.N さん)

□幼い頃のチリ地震津波 (昭和 35 年)、そして宮城沖地震 (昭和 53 年) と今までに大きな地震を経験してきましたが、今回、津波に流された家々の瓦礫の前に立つと、以前の風景が目に見えただけに声が出ませんでした。

4 月から公民館の避難所担当職務で被災された方々の支援にあたりました。毎日の被災者への食事の手配、大量に送り込まれてくる支援物資の対応、電気・水道が十分でない避難所運営など、正に戦場のような体験をしました。「津波来襲の光景や亡くなった人の顔が目に見え、夜も眠れない、食事が喉を通らないなど」の被災された方々の相談を受けましたが、当時の職務の忙しさのために十分な対応が出来なかったことを思い出します。

多くの方々が仮設住宅や親戚などを頼り避難所を後にしましたが、震災後の「まず自助、そして共助、最後に公助」を、今回はまざまざと教えられたような気がします。(T.W さん)

□仕事上、たくさんの方々の死に直面して、生きていることの尊さを強く感じました。人

生悔いのないように生きようと思います。

「乾癬なんて 一 気にする必要ない!!」(A.K さん)

□3 月 11 日はイベントの打ち合わせで老人ホームを訪問していました。大きな揺れでしたが施設は大丈夫でした。私は入所者へのサポートをしなければと思い手伝いましたが、普通では経験しない大変な体験をしました。

ところで、私は、新しい仕事を始めたことで注目を浴び、震災の 2 日前に私の活動が新聞に掲載されました。その日から問い合わせが相次ぎ、震災後も 3 月一杯は忙しい毎日でした。しかし、震災の影響は 4 月以降に明確に出始めて仕事の量が大幅にダウンし続け、遂に 7 月から半年間別の仕事を手伝って生活をしています。そのストレスは症状にも顕面に表れ、非常に悪化しています。(H.K さん)

□震災時は、仕事で仙台から石巻に行っていて被災し、4 日間避難所暮らしをしました。これは大変な体験でした。私たちなどの地元住民でない人々は皆んな積極的に支援物資の仕分け、食事の分配などの仕事を分担して行いました。私の主な仕事はトイレ掃除でしたが、それは想像を絶するもので、大便器に山盛りになった汚物に石灰を撒き、スコップで袋に詰めて運び出す作業を 1 日に 3 回行いました。

避難所には色々な立場で避難して人がいましたが、私たちのような仕事で来ていて被災した人たちの支援は、地元住民の方々にとって心強かったと思います。被災直後には役所の人はいないわけですから、各種のやるべきことを段取り良く行うのは仕事と同様で、約束事と担当者を決めて、避難者全員に公平・平等に段取り取ることが手際良く行うことが出来ました。

5 日目に仙台の事務所に戻ると大変な状況が待っていました。経営者である私は、通常の客先の多くが沿岸部の被災に遭った地域の会社でしたから、昼夜を問わずに対応に追われました。しかし、資材は入らず、仕事を進めるためには先立つ資金の問題や人員の手配など、乾癬治療のことなどを考える余裕も何もなく、それらのことが全てストレスとなり、通院する時間もなかったことから、案の定、症状は悪化していきました。(H.K さん)

□震災後に一番困ったことは、お風呂に入れな

かったことです。ゆっくり湯船に浸かりたかったり、体を流したりすることができなかつたために、体全体が真っ白になりました。毎朝の水の調達から始まり、まちの中心部へ自転車で行き食料を求めていました。ストレスも溜まり患部はひどい状態が続きました。

一番は「体をきれいにしておくこと」。このことが患部の状態を維持していく大切なことだと感じました。(H.Sさん)

□震災前に肋骨を痛め区内の病院に入院していた時に震災に遭いました。6階の病棟に居たが、部屋はメチャメチャになり、4階の廊下にベットごと移動させられ、電気、ガスが無く、毛布1枚で3日間を過ごしました。何とか歩ける状態になっていたのに、3日後には退院して欲しいと言われてました。

幸い、乾癬の症状は変化がありませんでしたし、自宅も地盤の良いところだったので、食器一つが壊れた程度で、水道、ガスも通じ、電気も4日後には通電しました。(T.Kさん)

□仕事中に地震に遭いました。2カ月位は職場の復旧で大変でした。自宅の周辺は住宅団地で被害を受けた建物(高層住宅)もありましたが、自宅は問題がありませんでした。

通院していた医院は仕事場の近くで仙台市内の中心部にあったので被害がなく、治療上の問題はありませんでした。(S.Sさん)

□あの地震時には、すぐ外に出ましたが地上に立ってられない程の揺れで、池の水が堤防に当たりしぶきになったほどでした。

震災後の病院では通院患者が多くなったようですが、私の通う皮膚科は完全予約制なので、通院のために必要な自家用車のガソリン不足では困りましたが、それ以外に困ったことはありませんでした。私の患部は夏になると比較的症状が改善して、投薬(チガソンカプセル)の量を減らされました。(S.Oさん)

□大震災後も余震が続き、身も心も震える中、世界中からの励ましやお見舞い言葉を頂き、有難かったです。家族、友人、地域の人達の支えが大きな力になりました。

「一人じゃない、心を寄せて頂くこと」が有難く、嬉しく、涙してました。(K.Sさん)

□地震は職場(仙台)で受けました。自宅(塩竈)は高台にありましたので被害はありませんでした。震災後は車で職場に通うことが出来ました。でも、約1カ月間は職場の復旧に追われましたが、通院していた病院には通うことができ、患部の特別な変化はありませんでした。(S.Sさん)

□他の病気(帯状疱疹)で退院した2日後に震災に遭いました。会社では炊き出しなどで多忙でした。しかし、お湯もあり患部の維持に努め

ましたが、1週間後にまた別の病気で1カ月入院しました。乾癬で通院している病院だったので、併せて乾癬治療も行えましたが、乾癬は全身(足の裏まで)にわたり悪化しています。

今回の震災で最も感じたことは「人の絆」の大事さです。仕事関係では全国各地の人々から激励や物資の支援を頂きました。以前、神戸で震災に遭われた方は、お土産持参で何度も訪れてくれ親身になってサポートをして頂いた。そのお礼は言葉では言い尽くせません。有難うございました。(H.Iさん)

□通っていた医院が1カ月以上も閉鎖していて塗り薬がなくなり、内科医院に行き、薬手帳で調剤をもらい、薬局で薬を手に入れました。

今回、震災が大きく、全ての医院が開けなかったなら、自分の「乾癬、天疱瘡もどうなっていたのか」と思うとゾッとします。(K.Kさん)

□震災では、「ガソリン入手の困難さ、またガスボンベの入手難、食料の確保」に苦労しました。さらに、娘夫婦の自宅が被災して、種々の苦労もありました。

しかし、友人の支援の有難さが身に沁みました。(A.Kさん)

□自宅は、仙台市内の地盤の固い丘の上にありましたので、新聞やTVで報道される海岸沿いの町が大きな災害に会っていたことに驚き、心が痛みました。

一日も早く、災害を受けられた方々の復興を祈るばかりです。(A.Aさん)

□私の地区では、水道の復旧がかなり遅れ、それでも患部の清潔が大事と思い1日20ℓの水の配給を工夫しながら身体の清潔を保つように努めました。幸い、住んでいる地区は津波などの被害のないところであったので・・・。

でも、津波に遭った方々の労苦を思えば、風呂に入りたいなどとは当時は考えもしませんでした。少しの湯を浴びることができるだけでも幸せに思えました。

けれども、かゆみ止め薬が手に入らなくなり辛い日々もありましたが、まずは建物、家具類の被害等が少なく、甚大な被害を受けた地域の方々の不幸を悼んでいます。(E.Sさん)

□実家は被災しなかったものの、故郷・気仙沼が被災し、親戚、友人、知人の多くが、現在も生活に不安を感じています。政治も権力争いをしている場合ではなく、早期に復興計画の具体案を示して欲しいです。

ただ、被災者の多くは、感情的な面を見せることも少なく、淡々と当時の状況を語り、日々を過ごしています。諦めもあるのかもしれませんが、むしろ逞しさを感じることがあります。(Y.Sさん)

□震災後2カ月は仕事上大変でした。しかし、

中国の新薬（健康食品／飲む、塗る：粉ミルク状）が手に入り、これを使うようになると患部は非常に良くなりました。この健康食品はロシア、韓国でも非常に好評とのこと。皆さんにも紹介をしたいと思います。（S.Hさん）

□3月11日は会社で被災しました。膝まで水に浸かり、最近までその復旧に追われる毎日でした。ようやく5カ月が経ち、これからが通常の仕事のスタートです。（H.Tさん）

□震災後に塩竈から閑上（名取）まで津波の跡を見て参りましたが、テレビや写真集などで見聞きした以上に生々しい悲惨な状態を見て、辛い思いをして戻りました。しかし、わが身はどうだったのだろうか・・・私は今80歳を過ぎ一人暮らしで乾癬になり未だにこの病気を治したいと努力しています。こんな時、震災に遭いました。

実は、現在の仕事が終わり次第に実家（福島県双葉町）に戻る予定でおりましたが、それも×になりました。泣いても鳴き切れない福島第1原発より2km足らずの場所に代々続いた家・屋敷（かなり大きい）は、勿論、土地、田畑、山などの沢山のものが無くなったのと同じです。最近のテレビでは、最後の一時帰宅の状態との事。家があっても、戻れるのは何十年先になることや、こんな状態で誰を恨めば良いのでしょうか？

家を守る者たちは、今はバラバラの生活です。私も戻るにも戻れず一人で励み続ける現在です。でも、こんな人々が沢山おられることも決して忘れられません。（K.Wさん）

□震災後は、風呂に入れない日が続いたのが最も困りました。「少々の病気でも生きることが大切です」。（S.Iさん）

□自宅は固い地盤で高い場所にあったので、市内の海岸部のような津波被害や地震被害は全くはありませんでしたが、市内の近くで津波被害があったことには心が痛みます。その姿は予想もしていない光景でした。

乾癬治療の通院は40～50日単位で通っていたので、薬を十分持っていたので問題はありませんでした。（R.Sさん）

□今回の震災で思ったことは、「乾癬に限らず慢性の病気を持った患者は、常に処方される薬が残りわずかだったり、手に入れることが困難になった時に、とても不安になり、病状の悪化を招く」ことです。

ですから、病院などが機能されない場合でも「処方薬のある場所や、提供方法を用意」しておき、患者が通常通りに薬を手に入れることができる形（仕組み）を考えて頂きたいと思います。（M.Kさん）

□震災を体験して、「人々の心の温かさ、強さ、

特に礼儀正しさ」を強く感じました。（Y.Yさん）
□震災当日は会社で勤務をしていましたので、来宅に困った人を車で送ってきました。私自身は自宅までは徒歩で帰宅しました。途中の生協で食料と飲み物を購入。道すがらの状況は道路の信号機は停止、ビルからは水が漏れだし、歩道には大きな亀裂が入り水が噴出していました。

帰宅後に、用事があり車で移動しましたが信号が止まっているので不安でしたが、皆んなが譲り合いの気持ちを持ち、無理に入り込む車もなく良かったです。しかし、帰り道は夜になり大変でした。それは、停電で明かりが全くなく、車のライト位なので目印となるポイントが分からず、ちょっと道に迷ってしまいました。途中で気付いて携帯のGPSや地図を使い、やっとの思いで帰宅ができましたが、明かりが無いと色々大変だなあと実感しました。（K.Yさん）

□確かに、病気を持っていると、震災では何であれ支障が出ます。そういう意味では、自分なりに苦労しているとか、不運とかとは考えないようにしています。（K.Cさん）

□地震時には自宅一人でいたので、どうしてよいか分からず、うずくまっていた。部屋はぐちゃぐちゃでしたが、幸い、食料も冷蔵庫に在庫があり、七輪で凌げました。水は出ましたし、電気も2～3日で使えるようになりましたが、都市ガスの復旧には1カ月ほどが掛かりました。石油もガソリンもありませんでしたが、自転車が目玉となり活躍しました。

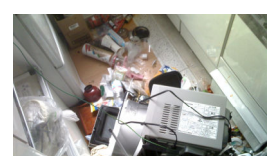
薬は手に入りましたが、1週間分しかもらえず、心細くなりました。

今回の震災が、こんなに広範囲で大規模で一瞬に地域が変わるなんて信じられません。沿岸部の方々を思う時、心が痛みます。激震は悲惨です。（T.Sさん）

□震災後に父を亡くしました。震災時に父はショートステイで施設に居ましたが、水道、電気、ガスの不通で1階廊下にベットごと移動させられました。当日は雪が降る寒さの中、モーフ1枚で3日間を過ごし、急性肺炎になり3日後に亡くなりました。約1カ月火葬もできず、4月7日の余震では父の祭壇が全て壊れて水浸し状態でした。自宅での告別式など49日迄は毎日が戦いでした。しかし、多くの近所の方々がご自分も全壊や大規模半壊になっている中で献身的に手伝いをしてくれました。本当に人との繋がりの大切さを強く教えて頂きました。（S.Nさん）



仙台ダイエー前・午前7時（5,000人の列）



住宅内の台所・破損状況

